

足立区基本計画審議会
第1回全体会 会議録

令和5年8月31日

足立区基本計画審議会 会議概要

会 議 名	足立区基本計画審議会 第1回全体会		
事 務 局	政策経営部 基本計画担当課		
開 催 年 月 日	令和5年8月31日（木）		
開 催 時 間	午後1時00分 ～ 午後3時00分		
開 催 場 所	足立区役所 南館8階 特別会議室		
出 席 者	【委員】		
	宮本 みち子 会長	石阪 督規 副会長	市村 智 委員
	遠藤 章 委員	笠井 健 委員	片野 和恵 委員
	加藤 和明 委員	國井 幹雄 委員	山下 俊樹 委員
	山下 友美 委員	渡部 郁子 委員	秋山 知子 委員
	小柳 真太 委員	岡安 たかし 委員	ぬかが 和子 委員
	野沢 てつや 委員	渡辺 ひであき 委員	大山 日出夫 委員
	長谷川 勝美 委員		
	【事務局】		
	政策経営担当部長 勝田 実	基本計画担当課長 伊東 貴志	基本計画担当係長 山崎 悠生
	政策経営担当係長 芳賀 優美子	政策経営担当係長 鈴木 力	政策経営担当係長 古田 信幸
	株式会社 地域計画連合 相羽	株式会社 地域計画連合 大久保	株式会社 地域計画連合 柳坪
欠 席 者	なし		

<p>会 議 次 第</p>	<p>第一部</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 足立区基本計画審議会委員委嘱 2 足立区基本計画審議会 会長・副会長選出 3 諮問 4 区長挨拶 <p>第二部</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 委員自己紹介 2 新たな基本計画の策定と審議内容（案）について 3 足立区基本計画審議会の運営について <ol style="list-style-type: none"> （1）足立区基本計画審議会条例及び足立区基本計画審議会条例施行規則について （2）分科会の設置及び委員構成について 4 審議会及び分科会のスケジュールについて 5 現行計画の総括評価について 6 足立区基本計画策定のための検討素材について 7 「安心と活力」の事業について 8 意見交換（区の現状・課題等） 9 事務連絡
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【資料１】 足立区基本計画審議会に関する説明資料 ・ 【資料２】 足立区自治基本条例 ・ 【資料３】 足立区基本計画審議会条例 ・ 【資料４】 足立区基本計画審議会条例施行規則 ・ 【資料５】 足立区基本計画審議会委員名簿及び分科会委員名簿（案） ・ 【資料６】 足立区基本計画総括評価書 ・ 【資料７】 足立区基本計画策定のための検討素材【概要版】 ・ 【資料８】 足立区基本計画策定のための検討素材 ・ 【資料９】 「安心と活力」の事業に関する資料 ・ 足立区基本構想（平成 28 年 10 月策定） ・ 足立区基本計画（平成 29 年度～令和 6 年度） ・ ワークシート（区の課題として感じていること、区の関心ある取組み） ・ 事前質問への回答
<p>そ の 他</p>	<p>傍聴人：有・<input checked="" type="radio"/>無（ 人）</p> <p>その他参加者：有・<input checked="" type="radio"/>無（ ）</p>

様式第2号（第3条関係）

（審議経過）

第一部

1 足立区基本計画審議会委員委嘱

（伊東基本計画担当課長）

それでは定刻を過ぎましたので始めさせていただきます。大変長らくお待たせいたしました。ただいまより、第1回足立区基本計画審議会を開催させていただきます。本日はお忙しいところ、ご出席賜りまして、誠にありがとうございます。私は、政策経営部基本計画担当課の伊東と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、第一部、第二部の構成となっておりますが、第一部の司会進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

最初に、本審議会は、足立区基本計画審議会条例第8条により、会議を公開とさせていただきます。会議録についてもホームページなどで公開させていただきますことをご了解願います。

また、会議記録については正確に記録するため、録音をさせていただきます。また、広報やホームページ等に掲載するため、写真撮影も行わせていただくことがございますのでその点もご了承ください。

それでは、本日の次第に沿って進めさせていただきます。最初に委嘱式を行いたいと思います。本来であれば、委員の皆様お一人お一人に委嘱状をお渡しするところではございますが、本日は代表して民生・児童委員協議会会長である市村委員に区長から委嘱状をお渡しいたします。なお、代表以外の方は席上へ委嘱状を配付させていただきますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。まずここで委員の皆様のお名前を読み上げさせていただきます。委員名簿はお手元に資料5と書かれたものがございますので、そちらをご覧ください。

最初に学識委員2名の方です。石阪督規様。宮本みち子様。続いて区内関係団体の委員の方々です。9名いらっしゃいます。市村智様。

（市村委員）

民生・児童委員協議会の会長を務めております市村です。よろしくお願いいたします。

（伊東基本計画担当課長）

東京商工会議所足立支部副会長、遠藤章様。

（遠藤委員）

遠藤です。よろしくお願いいたします。

（伊東基本計画担当課長）

足立区立中学校PTA連合会会計監査、笠井健様。

（笠井委員）

中学校PTA連合会の笠井と申します。よろしくお願いいたします。

（伊東基本計画担当課長）

足立区女性団体連合会会長、片野和恵様。

（片野委員）

片野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

（伊東基本計画担当課長）

足立区町会・自治会連合会会長代行、加藤和明様。

（加藤委員）

加藤です。よろしくお願いいたします。

（伊東基本計画担当課長）

竹の塚防犯協会会長、國井幹雄様。

（國井委員）

竹の塚防犯協会の会長をしております國井です。どうぞよろしくお願いいたします。

（伊東基本計画担当課長）

足立区医師会副会長、山下俊樹様。

（山下俊樹委員）

山下です。よろしくお願いいたします。

（伊東基本計画担当課長）

足立区立小学校PTA連合会副会長、山下友美様。

（山下友美委員）

山下です。よろしくお願いいたします。

（伊東基本計画担当課長）

足立区障害者団体連合会役員、渡部郁子様。

（渡部委員）

渡部と申します。よろしくお願いいたします。

（伊東基本計画担当課長）

続きまして、公募委員のお二人の方をご紹介します。秋山知子様。

（秋山委員）

秋山知子と申します。よろしくお願いいたします。

ます。

(伊東基本計画担当課長)

小柳真太様。

(小柳委員)

小柳真太です。よろしくお願いします。

(伊東基本計画担当課長)

足立区区議会議員の方々4名をご紹介します。岡安たかし様。

(岡安委員)

岡安と申します。よろしくお願いいたします。

(伊東基本計画担当課長)

ぬかが和子様。

(ぬかが委員)

ぬかがです。よろしくお願いいたします。

(伊東基本計画担当課長)

野沢てつや様につきましては、この後遅れていらっしゃる連絡を受けております。渡辺ひであき委員についても遅れていらっしゃることをうかがっています。続いて区の職員です。長谷川勝美副区長です。

(長谷川委員)

長谷川です。どうぞよろしくお願いします。

(伊東基本計画担当課長)

もう一人、教育長の大山日出夫ですが、本日は欠席となります。それでは、委員を代表して近藤区長から市村委員に委嘱状をお渡しします。

(近藤区長)

委嘱状、市村智様、足立区基本計画審議会委員を委嘱いたします。令和5年8月31日、足立区長、近藤やよい。どうぞよろしくお願いいたします。

(市村委員)

よろしくお願いいたします。

2 足立区基本計画審議会 会長・副会長選出 (伊東基本計画担当課長)

ありがとうございました。続きまして、本審議会の会長及び副会長の選出についてです。皆様のお手元にごございます資料3、足立区基本計画審議会条例第5条では、審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によって定めるとして

います。まず会長の選出から行いたいと思います。会長の選出についてはいかがいたしましょうか。

(市村委員)

宮本さんをお願いをしたいと思いますがいかがでしょうか。

(異議なし)

(伊東基本計画担当課長)

ただいま学識委員である宮本氏とのお声がありました。宮本委員は、放送大学客員教授・名誉教授、千葉大学名誉教授で、社会学者でいらっしゃいます。生活困窮者の問題や、貧困問題・若年者問題を長らく手がけていらっしゃいます。また、足立区では、孤立ゼロプロジェクト推進連絡会の学識委員を第1回から務めていらっしゃいます。

それでは、宮本会長ということでよろしいですね。よろしくお願いします。

それでは、続きまして、副会長の選出に移りたいと思います。いかがいたしましょうか。

(市村委員)

石阪さんをお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

(異議なし)

(伊東基本計画担当課長)

ただいま、学識者委員である石阪先生のお声がございました。石阪委員は、埼玉大学キャリアセンター長・教授で、社会学者であり、足立区では現在の基本構想策定の際に足立区基本構想審議会にご参画いただき、その他にも区民評価委員会の会長、男女共同参画推進委員会の委員長などを務めていらっしゃいます。

それでは、副会長については石阪委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、会長・副会長の就任にあたり、宮本会長・石阪副会長から一言ずついただきたいと思います。宮本会長、よろしくお願いいたします。

(宮本会長)

ただいまご指名をいただきました宮本でございます。足立区に関しては、10年前から孤立ゼロプロジェクトのスタートから参加させてい

ただきまして、10年間で素晴らしい成果を上げてきたことに大変感銘を受けております。それから、子どもの貧困対策も足立区で全国に先駆けてスタートすることに、初期の頃にかかわらせていただいたこともありまして、千葉市に住んでおりますが、足立区に大変親しみを感じているところでございます。こういう形で仕事をさせていただくことを、大変光栄に思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(伊東基本計画担当課長)

ありがとうございます。それでは石阪副会長、よろしくお願いします。

(石阪副会長)

皆さんこんにちは。石阪と申します。現在埼玉大学におりますが、2012年に私、東京未来大学に來た時に、足立区と初めてこういう形でいろいろとお仕事をさせてもらっていますが、10年以上経ちました。そういった中で私が現在務めている、例えば男女共同参画の分野では、多様性の尊重という視点から様々な改革、制度を足立区が立ち上げられましたし、宮本会長がおっしゃった貧困問題であったり、あるいはまちづくり、あるいは大学の立地もこの間進みました。こういった中で足立区の10年は大きく変化をしています。私が基本構想の策定にかかわった時から足立区は大きく変わっていて、今回基本計画、これを見直していくということですから、ぜひ皆さん、いろいろとご議論をいただいて、足立区がより良い足立区。今よりも幸せな足立区。これを目指してご意見をいただければと思います。コーディネートさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

3 諮問

(伊東基本計画担当課長)

ありがとうございます。続きまして、区長より新たな基本計画に関する諮問をいたします。宮本会長、近藤区長、よろしくお願いいたします。

(近藤区長)

諮問、足立区基本計画を策定するにあたり、下記の事項について諮問します。1、新たな足

立区基本計画について。令和5年8月31日、足立区基本計画審議会会長様。足立区区長、近藤やよい。どうぞよろしくお願いいたします。

4 区長挨拶

(伊東基本計画担当課長)

それでは、近藤区長よりご挨拶をお願いいたします。

(近藤区長)

お暑い中本日はご出席をいただいて、誠にありがとうございます。現行の基本計画が令和7年の3月で満了となることをもちまして、新たに今回皆様方に計画の策定をお願いすることになりました。現行の計画は平成29年に策定をいたしました。この間に当初は想像も付かなかったコロナ禍というものが入っておりますので、この間、普通の通年の計画の策定とはまた違ったドラスティックな変化があったと考えております。まちの変化というのは見た目で見えるもの、そうでないものがございます。例えば、町会・自治会の加入率なども50%を切っているような非常に厳しいところもあるということ。そしてまたお子さんの健康や体力についても、かなりコロナの前と後では違いが出てきているということも含めまして、様々な影響を捉えて、そうしたものを今のうちに払拭しておく必要があるのではないかということが一つ。そしてまた今回皆様方に策定していただく期間の満了時には、足立区の区政が100周年を迎えるという大きな節目でもございます。100周年に向かって、100歳になった時に足立区はどのような形で、100年を祝うのかという形に見える化していく、具現化していく一つのツールが今回の計画にあると考えておりますので、ぜひそれぞれのお立場で十分なお経験をお積みの方々ばかりですので、忌憚のない意見交換をしていただきまして、今回の基本計画の策定にお力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

こうした大きな計画、ご承知の通り、足立区の全ての計画の頂点に位置する計画でございます。

すので、ともすれば何かこうどの区でも同じようになりがちな部分もあるかもしれませんが、ここぞ足立というような、少しとんがったような、足立区らしさがあふれる基本計画になればありがたいなと思っております。ただ、そうは言いましても、今日を入れて全体会が4回。二つに分けた分科会も5回ということで、それぞれの皆様方には9回ご負担をお掛けするようなことになって、大変申し訳ないと思いますが、この計画通りに足立区が進んでいくわけですので、この計画の善し悪しが未来の足立区、明日の足立区を決めていくというふうにも言えるわけでございます。重ねて皆様方のご尽力を心からお願い申し上げまして、ご挨拶といたします。高いところから大変失礼いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

(伊東基本計画担当課長)

それでは、これにて第一部を終了いたします。なお、近藤区長はこの後他の公務がございますので、申し訳ございませんがここで退席とさせていただきます。

(近藤区長)

よろしくお願いいたします。

(伊東基本計画担当課長)

それでは、宮本委員が会長に選任されましたので、席の移動をお願いいたします。

第二部

1 委員自己紹介

(伊東基本計画担当課長)

それでは、ここから第2部を始めさせていただきます。改めて本日の配付資料を確認させていただければと思います。先ほど第一部で使いましたが、改めて確認でございます。

まず資料1は、基本計画審議会に関する説明資料です。資料2は、足立区自治基本条例。資料3は、足立区基本計画審議会条例。資料4は、足立区基本計画審議会条例施行規則。資料5は、足立区基本計画審議会委員名簿、及び分科会委員名簿（案）。資料6は、足立区基本計画総括評価書。資料7は、足立区基本計画策定のための検討素材の概要版。資料8は、足立区

基本計画策定のための検討素材。資料9は、安心と活力の事業に関する資料になります。また、本日の席上配付資料として、委嘱状、席次表、資料8、足立区基本計画策定のための検討素材の訂正内容、事前ワークシート意見一覧、意見提出用紙。そして現在の足立区基本計画、足立区基本構想をご用意しています。資料等の不足等はございませんでしょうか。

続いて、席上のマイクの使い方のご案内です。ご発言をしていただく際は、大変お手数ではございますが、お手元のマイクのボタンを押していただき、マイクのランプが点灯しましたら、最初にお名前をおっしゃってください。名前は会議録記録の作成に必要なためでございます。ご発言が終わりましたら、再度ボタンを押していただきますようお願いいたします。それでは、ここからは宮本会長に進行をお願いいたします。

(宮本会長)

それでは、早速始めさせていただきます。会長にさせていただきました宮本でございます。まだ第1回目で慣れないものですから、いろいろとバタバタするかもしれませんがお許しください。では、次第に従って進めさせていただきます。

本日は初回ということでございますので、委員の自己紹介をお願いできればと思います。その後意見交換が予定されておりますので、時間を有効に使って意見交換ができればということで、自己紹介はお一人1分ということでですね。先ほども一度お話もいただいておりますので、それに付け加える形でご紹介をいただければと思います。では会長からとなっておりますので、宮本からご挨拶をさせていただきます。

私、研究者として、社会学をやっておりますが、実はもう5年前に大学の方は全て退職をしております。今は全くフリーの立場でやっております。どんなことをやっているかというと、一つは今までに引き続いていろいろな研究活動をやっております。それからもう一つは、今年の4月にこども家庭庁がスタートしましたが、そのスタートまでの間の有識者会議等でこども家庭庁をスタートさせるための仕事にかか

わらせていただきました。それから内閣府の子どもの貧困対策に関する有識者会議の座長もさせていただきましたが、その時にも足立区の取り組みなどは、常に興味を持って学ばせていただいていたところでございます。あとはいくつかの全国のNPOの仕事にかかわらせていただいております。特に子どもや若者の問題についてずっと扱ってきております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、石阪副会長、お願いいたします。

(石阪副会長)

埼玉大学の石阪と申します。よろしくお願いいたします。専門は地域創生論、地域社会学で、全国のまちづくり等々やっています。宮本先生とも若者支援とか、最近では男女共同参画といったことも足立区でかかわらせていただいています。今回は分科会のコーディネートをしていただきたいと思いますので、そちらの方で皆さんの意見を出していただければと思います。よろしくお願いいたします。

(宮本会長)

ありがとうございました。それでは、区内の関係団体委員ということで、市村委員、お願いします。

(市村委員)

民生・児童委員協議会の会長を務めております市村と申します。民生・児童委員はどんな活動をしているかと言いますと、子どもから高齢者までの見守り。そして地域で困っている人の相談相手になって、行政につないで解決をするという、解決のためのつなぎ役のような活動を現在もしております。今年は特に猛暑続きでして、高齢者の皆さんに熱中症対策、熱中症に気を付けましょうという喚起の活動に力を入れてやっているところでございます。どうかよろしくお願いいたします。

(宮本会長)

ありがとうございました。では、遠藤委員、お願いします。

(遠藤委員)

遠藤です。私は商工会議所からやってまいりました。東京商工会議所、それから日本商工会議所の関係で、商工会議所足立支部という形で

やらせていただいています。どういうことかという、主に経済関係の話といったことになると思うのですが。大体東京商工会議所の会員が8万5,000件ぐらい。足立区は3,300件ぐらい。足立区の法人は3万ぐらいありますので、そのうちの10分の1が会員という形になっています。私どもの問題は、経済の問題が多いので、近々の問題がすごく多いんです。いますぐ、明日明後日すぐに解決しないと、どうにもならないといった問題・課題がたくさんあります。そういう問題が特に最近多くて、その問題を解決しないと、都内の中小企業、あるいは足立区の中小零細企業がだんだん倒産していくとか、廃業していくとか、そういう傾向に今ありますので、そういった数字を出しながらご説明申し上げたいと思っています。よろしくお願いいたします。

(宮本会長)

ありがとうございました。それでは笠井委員、お願いします。

(笠井委員)

初めまして。よろしくお願いいたします。底辺の区民のまさに意見として、現場の意見としていろいろ意見を出していきたいなと思っていて。私自身は中学校以外にも高校のPTAの四役。小学校も本部役員をし、自治会も役員をしております。意外と底辺の生活を見続けて、支えている1人だと自分でも思っています。そこから皆さんに対して、この会議に対していろいろ良い意見が出せたらなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(宮本会長)

ありがとうございました。では片野委員、お願いします。

(片野委員)

足立区女性団体連合会の片野です。女性団体連合会としては、男女共同参画・ジェンダー平等を訴えている団体ですが、私個人は子どもの貧困問題や学習支援、一人親の支援などをやっているNPOを運営しております。やはり現場の意見と言うか、現場を持っておりますので、現場の意見をこういう計画の場に出していけるのが私の使命だと思っております。ど

うぞよろしく願いいたします。

(宮本会長)

ありがとうございました。では加藤委員、お願いします。

(加藤委員)

町会・自治会連合会の会長代行を務めております加藤です。単独の会長を27年間務めさせていただいております。足立区には町会・自治会の数が438ありまして、そのうち連合会に加入しているのが385ございます。問題になっている加入率ですが、かつては80%。一番多い時は80%ありました。そして70%、60%と下がってきまして、何とか50%台を維持しようということで、パンフレット・リーフレットをいろいろ作りましてですね。加入促進を進めました。特に東日本大震災がありましたから、足立区には各学校を拠点として避難所の運営会議がございまして。こういった災害があった時には大変だよということを加えまして、加入の促進を進めている状況ですが、ここに書いてある通り、残念ながら平成25年が58%。それから令和5年に至っては45.92%です。ですから半分以上が加入していないということになります。というのは、今まで入っていた方はそのまま入ってくださるのですが、新しく転入された方、あるいはマンション系の方などがなかなか入ってくださらなくてこういった現状になっています。また3年間のコロナ禍がありましたので、町会の事業はほとんどできませんでした。そのようなことからですね、加入世帯の方から町会の顔が見えない、姿が見えないという声も聞こえています。そんなことで、大変加入率が減少していること。そのことからですね、一番の目標です。連合会の目標は、加入促進をうたってはいるのですが、なかなか弾みが付かない状態です。

(宮本会長)

ありがとうございました。では、國井委員、お願いします。

(國井委員)

皆さん、こんにちは。私、竹の塚防犯協会の会長をしております國井と申します。皆様方ご存じの通り、足立区は4署警察がございまして。

千住署と西新井署と綾瀬署と竹の塚署があって、私は代表ということなのかよく分かりませんが、竹の塚防犯協会を通してやってきました。私のモットーは、やはり特殊詐欺が撲滅できたらいいなと思っているところです。4署が協力しながら頑張っていきたいと思っております。皆さん方のお役に立つかどうか分かりませんが、頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(宮本会長)

山下俊樹委員、お願いします。

(山下俊樹委員)

医師会副会長の山下と申します。よろしくお願いします。医師会は医療・介護だけではなく、予防接種や健康診断、それから学校医だとか、災害医療であるとか、そういういろいろな面で日頃から行政に協力してやっております。とかく医師会と言うと、開業医の利益誘導団体じゃないかと、いまだにそういうふうにとらえられている面も多分にあると思いますが、少なくとも都市部においては、今医師会はそのような性格はほとんどないと。特に足立区医師会はどうしたら区民のためになるのかを、少なくとも執行部・理事たちは常に考えています。だから最近では、医師会に入ってもあまりメリットがないと、なかなか入ってくれない開業医も多い状況になっています。それはそれで考えなければいけないなと思っています。今回私もそのような考えでこの会議に臨みたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(宮本会長)

ありがとうございました。それでは山下友美委員、お願いします。

(山下友美委員)

初めまして。小学校PTA連合会副会長の山下友美と申します。足立区西新井第二小学校の会長を5年間、今6年目を務めさせていただいて、私自身シングルマザーで8年間娘2人を育てています。男女共同参画も参加させていただいて、顔見知りの委員の方々もたくさんいらっしゃるの、心強く思っております。そちらの方でもいろいろジェンダーフリーとか、子どもの貧困とか、リアルな声をお届けできたら

と思い参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

(宮本会長)

ありがとうございました。では渡部委員、お願いします。

(渡部委員)

よろしくお願いいたします。障害者団体連合会から参りました渡部郁子と申します。よろしくお願いいたします。もともと区民委員としてユニバーサルデザイン推進委員を担当した際に、障害者団体連合会の活動と知り合って、今お手伝いをさせていただいている状況です。なので、ユニバーサルデザイン推進委員とバリアフリー協議会の方に参加をさせていただきまして、障害者団体、バリアフリーやユニバーサルデザインがどう進んでいくかというところを尽力させていただいております。私個人としては、親子のアウトドア活動の推進を事業として行っておりまして、子どもだけでなく、親も含めたアウトドアの活動をもっと増やすこと。それからそこにかかわる防災意識の醸成ということで、そういったことをテーマに活動しておりますので、今回この話し合いの中でそういった日頃の活動から見えているものがお伝えできればと思っております。よろしくお願いいたします。

(宮本会長)

ありがとうございました。それでは小柳委員、よろしくお願いいたします。

(小柳委員)

公募委員の小柳真太です。よろしくお願いいたします。普段は情報処理技術者としてサラリーマンで働いていて、3人の子どもの育てていまして、私自身も30年ぐらい前から足立区に住んでいるので、かなり足立区にはお世話になっているので、恩返しの意味で参加をいたしました。普段情報処理の仕事をしていると、最近はテレワークをしているのですが、運動不足になりますので、毎週日曜日には近所を散歩したりします。近所と言ってもあきてくるので、足立区内いろいろなところを散歩します。今回参画するにあたって、足立区基本計画の内容をたくさん読んだりしている中で、例えば千住大橋の

あたりで足立区駅前のロータリーができたとか、そういったものを見て、全く知らなかったので行ってみようと思って、先週行きました。今まで思っていた千住大橋のイメージと全然違う光景が広がっていて、私も知らない部分が多いので、好奇心を持ってこの会に参加して、私が提供できるものを提供できればと思っています。例えば情報処理に関することですか、もしくは課題があればおそらくかなり助言することができるといいますので、よろしくお願いいたします。

(宮本会長)

ありがとうございました。それでは秋山委員、お願いします。

(秋山委員)

秋山知子と申します。私は足立区に住んで13年目で、住んでいるのが北千住の東口エリアです。小学校2年生の娘を育てておりまして、山下さんや笠井さんと同じく、私も小学校ではPTAの役員をさせていただいております。個人の仕事としては、千住元町にあるタカラ湯という銭湯でお掃除をしたり、SNSやイベントのお仕事をお手伝いしております。個人的にママ友を集めて、北千住にあるお肉屋さんとか和菓子屋さん、あとは個人のパン屋さんなんかのものを集めて、食べ比べをするイベントをやっております。そういった活動の中で千住のまちをよく見て歩いていると、昔ながらの建物がどんどんなくなって、マンションが建っていたり。昔ながらの千住らしい良さのあるところがどんどん減っているのを肌で感じています。そういった中で基本計画の審議会の公募委員の募集を見まして、私は前職が実は杉並区役所の職員をしていましたので、そういった経験もありますので、他の自治体とのつながりもいろいろ持っています。また今は結構この中では子どもの貧困ということが非常に多く取り扱っているのですが、私は実際に中間所得層に所属しております。そういった目線からは足立区の施策がもう少し欲しいと思うところが実感としてあるので、私はそういった目線から提言をしていきたいと思っております。出身は秋田県です。よろしくお願いいたします。

(宮本会長)

ありがとうございました。それでは足立区議会議員の岡安委員からお願いします。

(岡安委員)

皆さんこんにちは。区議会議員の岡安たかしでございます。所属会派は公明党です。この5月の改選で5期目の当選をさせていただきました。もともと柳原で生まれ育ちまして、祖父の代から足立区生まれ、足立区育ちです。仲町に親の引っ越しの関係で1年半住みまして、大学から足立区を一旦離れたのですが、社会人になってその後、名古屋に2年、四国に8年、およそ10年経ってまた一旦足立区、ふるさとに戻ってまいりまして。3年過ごした後にまた栃木の宇都宮の方に転勤になりました。前職は建設関係だったのですが、転勤生活で。宇都宮の3年を過ごした時に、区議会議員というお話をいただき、ふるさと足立に戻ってきた次第です。前回も基本構想・基本計画の審議に参加させていただきました。しっかりまた足立区の憲法とも言えるこの基本計画・基本構想にかかわる話ですので、知見も自分の持っているまた経験・体験も生かしながら、審議に参加させていただきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

(宮本会長)

ありがとうございました。それではぬかが委員をお願いします。

(ぬかが委員)

区議会議員のぬかがです。30年以上議員をやらせていただいているので、加藤委員はじめ多くの方とご一緒に過ごしていた時期も多かったです。私も岡安さん同様地元生まれで、足立区伊興で、伊興小、十四中、足立高校ということで、ずっと足立です。そして文教大学だったのですが、保育士になりたくて、保育の分野に進んでから議員になった。今の区議会の中では、唯一保育士出身の議員でもありますので、やはりそういった目でもいろいろなものも言っていきたいというのが一つと、実は長年環境審議会の委員を務めさせていただいておりまして、私自身はそれをライフワークのように思っています。今の気候危機の中で、気候変動適応策

や、本当に先ほど区長が100年ということをおっしゃったけれども、しっかりと持続していける自治体。そういう姿を描きながらの基本構想に基づく基本計画ということで、一緒に議論をしていきたいと、前向きに議論をしていきたいと思っています。特に私も前回基本構想の時の審議会の委員をやらせていただいたのですが、確か基本計画という段階は、今までは行政の中で作っていたんですよ。それを今度は審議会を作って、公募委員まで募って、区民の力で作り上げていこうというのは初めての試みだと思うので、本当に協力し合いながら、実りある審議会になればと思っています。よろしくお願いいたします。

(宮本会長)

ありがとうございました。それでは野沢委員、お願いします。

(野沢委員)

皆さん、こんにちは。足立区議会議員の野沢てつやと申します。私は日本維新の会の副幹事長をやっています。5月に初めて当選させていただきました。私は見ての通り車椅子生活をしていまして、24～25年前に交通事故で背骨が折れて以来、車椅子生活を送っております。その後本当に挫折と這い上がりの繰り返しみたいな人生を送っています。背骨が折れてからは、埼玉県各市町村で正職員として採用していただきまして、そこで主に高齢福祉課。介護認定給付係ということで、窓口で受付をしたり、介護認定調査をしたりして、高齢福祉に長い間携わらせていただきました。その後なぜか脊髄再生医療の被検体選ばれてしまいまして、再生医療に携わりまして、6年ぐらい大阪とか和歌山に行って、再生医療の被検体をやっておりました。その後社会復帰をしまして、国家公務員試験を受けて、東京高等裁判所に採用をしていただきまして、そちらの刑事部で控訴事件を扱わせていただきました。先ほど加藤委員がおっしゃった特殊詐欺、これも三大事件で、詐欺・窃盗・覚醒剤。この三つの特徴的な事件ですが、私もいろいろな事件を見させていただきましたので、何かの参考になることができればいいなと思っています。娘は特別養子縁組でい

ただきまして、ただいま2歳です。人生挫折と
這い上がりの繰り返しで、ただ一方でいろ
んな経験をさせていただきました。このいろ
んな経験をさせていただいたことを、皆様と共
に共有しながら、足立区を良くするために貢
献できたと思いますので、どうぞよろしく
お願いいたします。

(宮本会長)

ありがとうございました。渡辺委員と区職員
の大山委員はご欠席です。では長谷川委員、お
願いいたします。

(長谷川委員)

副区長の長谷川です。どうぞよろしくお願
いいたします。先ほど区長から基本計画につ
いては行政の頂点の計画だという話がありま
したが、確かにこの下に各部門計画というこ
とで、例えば福祉の計画とか、それから介護・教育の
計画。より具体的な計画がこの下にたくさんあ
ります。そのまさに頂点の計画なのですが、足
立区においてはそういう理念系の計画だけでは
なくて、実効性を持たせようということで、こ
の計画の中にはいついつまでにどの目標値をク
リアするかという具体的な数値を入れて、実効
性を持たせたいということで今進めておりま
す。それからもう一つは、私もずっと行政経験
が長く来たのですが、特に思うことは、やはり
行政の対象スパンが非常に広がってきていま
す。以前私、福祉事務所のケースワーカーから
始まりましたが、その当時は孤立ゼロとか、子
どもの貧困対策といったことはなかったのだ
ですが、どんどん行政のスパンが広がってき
て、例えば待機児も、保育の待機児ゼロを達
成したと思ったら、今度は学童の待機児をど
うしようかということです。コロナ禍の問題
も医師会の皆さんと一緒にやりましたが、行
政の対象事業がどんどん広がっていく中では
、まさに区民の皆様、いろいろな事業体の皆
さんと一緒に課題に取り組んでいかないと、も
う課題解決はできないということを日々実感
しております。どうぞよろしくお願いします。

(宮本会長)

ありがとうございました。では委員の皆様の
自己紹介をしていただきましたので、それでは

区の事務局職員の紹介をお願いいたします。

(伊東基本計画担当課長)

それでは事務局職員を紹介します。まず政策
経営担当部長の勝田でございます。

(勝田政策経営担当部長)

勝田です。どうぞよろしくお願
いいたします。

(伊東基本計画担当課長)

基本計画担当係長の山崎でございます。

(山崎基本計画担当係長)

山崎です。よろしくお願いします。

(伊東基本計画担当課長)

政策経営担当係長の芳賀でございます。

(芳賀政策経営担当係長)

芳賀と申します。よろしくお願
いいたします。

(伊東基本計画担当課長)

本日は政策経営担当係長何人か同席をさ
せていただいております。他に本日は、本審
議会の運営を委託しておりますコンサル
タント会社、地域計画連合の職員も同席
しております。

**(株式会社地域計画連合 相羽、大久保、柳
坪)**

よろしくお願いします。

2 新たな基本計画の策定と審議内容（案）について

3 足立区基本計画審議会の運営について

(1) 足立区基本計画審議会条例及び足立区基本 計画審議会条例施行規則について

(2) 分科会の設置及び委員構成について

4 審議会及び分科会のスケジュールについて

5 現行計画の総括評価について

6 足立区基本計画策定のための検討素材について

7 「安心と活力」の事業について

(宮本会長)

それでは、事務局から資料の2から7の
説明をお願いします。意見交換は資料の
説明が終わった後で、まとめて行いま
す。ではよろしくお願いします。

(伊東基本計画担当課長)

資料の説明をさせていただきます。本日の資

料は数が非常に多くなっておりますので、資料の要点をまとめたスライドにてご説明させていただきます。

皆様のお手元の資料では、資料1、足立区基本計画審議会に関する説明資料がその内容にあたります。画面でも表示していますので、どちらかをご覧くださいと思います。

第二部の次第にあります、この次第2から7まで一括でご説明をさせていただきます。このスライド、先ほどから少しお話が出ていますが、足立区には基本構想というものがございまして、こちらは長期的な視点、向こう30年間の今後の足立区を見据えて策定をしているものでございます。こちらはこの構想ができてからまだ30年経っていませんので、今回改定をする対象からは外されるものです。中段にあります中期的8年と書いてある基本計画。ここが本審議会での議論をするものになります。基本構想の下で区の最上位の計画として位置付けられている計画でございます。全ての行政のあらゆる分野を網羅しているため、自治体によっては総合計画という名前で取り扱っているところもございます。そして今回、委員の皆様主に審議いただきたい内容ですが、この基本計画の中には、柱建てという層と施策群という層と施策という層。この3層構造になっています。柱建てと施策群というのは、ある種普遍的なところを記述してございますので、そういうくくりで整理をしておりますので、あまり変わるものではないのですが、一番下にある施策。この部分については、区の方でまだこの部分は至らないとか、穴だなというところはまだあると思います。このあたりを社会構造の変化等もございしますので、更に区として取り入れるべきとか、リライトを掛けるべき分野があるのではないかというご議論をいただいて、フィードバックをいただきたいと考えているところです。

こちらは基本計画・基本構想に関するものとして、本日資料として条例がございしますが、後ほどご参照をいただければと思います。本審議会の運営の形でございます。本日は委員の皆様にお揃いの審議会の全体会という位置付けでございます。そしてこの後、暮らし・まち

分科会と、ひと・行財政分科会、それぞれに分かれて深く議論をいただこうと思っております。そして委員の皆様それぞれの分科会に入ってくださいと思っておりますが、その案についてはお手元の資料の、委員名簿をご覧ください。事務局の方であらかじめ案を作らせていただいております。各所属団体等を考慮して、テーマに沿う形の分科会に割り振らせていただいております。その点についてまずご審議をいただきたいと思います。会長、いかがでしょうか。

(宮本会長)

それでは、事務局から皆様にご参加いただく分科会の案が提示されたのですが、ご異議はございませんか。

(異議なし)

(宮本会長)

よろしいでしょうか。それでは異議がないということで確認させていただきました。では事務局から引き続きご説明をお願いします。

(伊東基本計画担当課長)

ありがとうございます。それでは引き続き説明をさせていただきます。本審議会ですが、先ほど区長が少し触れましたが、全体会4回、分科会5回のスケジュールで進めていく予定です。全体会については本日を含めて来年の10月までのスケジュールで、その合間で分科会を開かせていただこうと思っております。全体会と全体会の間に2回程度の分科会を挟むといった流れで今後進めていければと思っております。テーマについて深くご議論をいただくのは、主に分科会の中でという形になろうかと思います。分科会で1～2回目は区の現状や課題についてご討議をいただきまして、その後の分科会で新しく取り入れる視点ですとか方向性について、どういうものが望ましいのかというところのご議論をいただくという形で進めていければと思っております。その後この審議会から区の方に答申をいただきまして、区の方で計画の素案を策定し、パブリックコメントに掛けていくという流れで進めていければという想定でございます。

こちらがスケジュールの具体的な日程でござ

います。今年度内は記載の通りの日付で開催できればと考えております。来年度の日程については、まだこれから調整をさせていただきたいと思っています。お忙しいところ大変恐縮ですが、1回目の分科会につきましては、来週の木曜日と金曜日に開催させていただきたいと思いますので、ご承知置きいただければと思います。

ここからが大事なお話になります。まず現行の基本計画が動いていますので、その計画が今どのような状態なのかというところの話でございます。今の計画も策定当初に目標値等を立てて進めていく形にしておりますが、今の計画がどの程度進捗しているのか。目標に近付いているのかという評価を私どもでさせていただきます。評価としてA評価、B評価、C評価、D評価、E評価という形で、Aは既に目標を達成しているもの。Bは現時点ではまだ目標に達していないが、当初よりは改善をしている。Cは変わらない。Dは当初よりも下がっている。Eは評価が困難なものがあるということでございます。

まず個別の評価の前に、区政全体に関する満足度というのを、区が一番頂点の指標にしております。その数値につきましては、この計画、現行計画がスタートした平成29年から昨年度、令和4年までで比べて、令和4年は68.1%ということで、7割弱の方が区政に満足いただいているという結果が出ております。平成30年以降は右肩上がりになっているという状況でございます。

そして、今、現行の基本計画の中には、118の指標がございます。スタート時に比べて目標を既に達成しているという指標については20施策。全体の割合で17%。現時点で目標値には達してはいないのだけれども、改善傾向にあるものが40指標で33.9%。Cの変わらないというのが36指標で30.5%。逆に悪化しているものもあって、21指標で17.8%といった割合になってございます。全体としては50.9%が目標達成、または改善傾向にあるということで、半数以上のものは本計画がスタートした時よりも状況としては良くなっ

ているということが相対の状況でございます。

詳しくは資料の6が総括評価書になりますので、こちらは後ほどお目通しいただければと思います。評価の代表例をここに記載をさせていただきました。まずA評価として代表的なものが、保育事業における待機児童数です。こちらは委員の皆様ご承知の通り、待機児ゼロを達成してございます。そして目標値までは届いていないけれども、当初よりは改善しているものの代表例で、体感治安。体感治安が良いと感じている区民の割合が、この計画がスタートした時は54.1%だったのですが、現在は64.

5%ということで、10ポイント以上改善している状況です。そして横ばいになっている。あまり変わっていないというものとして、介護が必要になっても今の地域で安心して住み続けられると思う高齢者の割合ということで、地域包括ケアの関係です。こちらは65.8%がスタートでしたが、目標値の70に対して現在67.3%といった状況です。若干改善はしているのですが、横ばいという評価をさせていただきました。そして逆に悪化をしている例として、町会・自治会の加入世帯率でございます。スタート時が54.8%だったものが、目標としては60%なのですが、直近で45.92%。スタート時より14.08%下がっている状況です。1件だけ評価が困難というもので、協創について理解が深まったワークショップを受講した職員の割合という指標があるのですが、こちらは新型コロナの関係で、事業そのものがこの間できなかった部分がございます。評価そのものができないというものでございます。

そして、今後この計画をどうしていくべきかというところの議論の素材にさせていただきたいと思ひまして、資料7と8で、足立区基本計画策定のための基本素材を用意させていただきました。全てはご紹介できないのですが、人口世帯の状況等を今少し説明させていただければと思います。足立区の今現在の人口なのですが、令和2年度をピークにやや減少傾向ではありますが、世帯数としては継続して増加傾向にあります。コロナの関係があつて、一時期減ったの

ですが、令和4年度にはやや持ち直している状況です。

足立区において特徴的なところとして、転出入の状況があるのですが、転入超過については、コロナが始まる前と後で大きな差は実はあまりございません。若干人数としては減っている部分があるのですが、大きな差ではございません。転入超過数は令和元年の3,721人から、令和4年は3,172人ということで、引き続き3,000人以上の方が足立区に転入してきている状況です。

東京は人口が他の自治体と比べて増えているという状況は、ニュース等でもご存じの方はいらっしゃると思いますが、では23区全体が果たしてどのような状況なのかを確認した資料がこちらです。実は令和元年の時は、どの区も総じて転入超過がほとんどだったのですが、コロナ禍を経てその状況が変わってきたというのがこのグラフです。ピンク色が令和4年度です。これをご覧くださいますと、世田ヶ谷区や渋谷区や中野区といった西側の区が、令和元年は転入超過だったにもかかわらず、令和4年はピンク色が下に来ているので、転出超過に転じています。ただ、東側も足立区や葛飾区・江東区・墨田区などは転入超過が続いていたりと、江東区・墨田区・台東区では転入超過が更に進んでいるという状況です。昔はどの区も転入超過だったのですが、今は二極化をしてきているというのが、コロナを経て変わってきた状況だということが分かりました。その中で足立区は引き続き転入超過が続いている状況です。この他人口に関するデータですとか、あとは基本構想で持っているひと・くらし・まち・行財政の視点ごとにご覧いただきたいものが、こちら資料6に記載がございます。全てを読むと時間が掛かりますので、資料7で抜粋版を付けていますので、そちらを後ほどお目通しいただければ幸いです。今後のご議論に参考にしていただければと思います。

資料が変わります。お手元の資料9をご覧ください。資料9-1です。足立区ではこれからの足立区のキーワードとして、安心と活力という言葉が重要なのではないかなと考えていま

す。安心と活力という言葉は、実は今年度の足立区の予算のテーマでも使われている言葉なのですが、安心については、文字通り区民生活に寄り添って支えるという意味ですが、活力については区の持続可能性を更に向上させるといった意味合いが含まれています。自治体が自治体として追い求めていく普遍的な考えなので、この視点については基本計画においても重要な視点として取り入れていきたいと思っています。基本構造の中で掲げている四つの視点が、ひと・くらし・まち・行財政ということなのですが、その分野ごとに安心と活力という視点がどのように落とし込めるかなということで、一つの絵にしたものが今表示をしている9-1の絵でございます。

ご説明しますと、左上がひとの分野でございます。ひとというくくりの中で、安心と活力といった時に、どういったものがイメージできるのかというところが、こちらの記載になります。安心については、子どもたちが笑顔で育っていくことができるような環境を整えるですとか、子どもが安全に快適な学びを受けて、自己肯定感が高まっている状態。障害を抱えていたり、性的マイノリティの方々であっても、多様な個性が尊重されて、お互いを認め合えるような社会は安心につながるだろうということが言えると思います。一方で活力については、子どもが活力や夢や希望を持っていけるものの実現にチャレンジしていける社会とか、区民の方々がスポーツや芸術に親しんで生活を豊かにしていくというところが、生活にゆとりが出て、活力にもつながっていくのではないかと。いったところで、視点としては落とし込めるかなと思います。またこの安心と活力という考えは、どちらか一方がどちらか一方に対して影響を与え合うということで、相乗効果が生まれるという部分もあると思います。これは、ひととかくらし・まち・行財政、その分野だけではなくて、ひとが高まっていけば、もちろんまちやくらしにも影響があるので、それぞれの視点ごとについても影響し合うといった関連性が出てくるだろうと思っています。ですので、安心と活力が生まれていくそれぞれの分野について、

バランス良く高めていくという取り組みをしていかなければならないと考えているところです。

こちらは何の資料かというと、区が直近ここ3年間で重点プロジェクト事業と呼ばれるものや予算の注力事業と位置付けた事業が、ひと・くらし・まち・行財政の各分野でどのあたりに中心的に据えられてきたのかを可視化したものです。見方をご説明します。この表は縦軸と横軸に分かれていて、縦軸、真ん中に線がございますが、縦軸の上にポピュレーションアプローチと書かれています。その下に行くと、個人へのアプローチと書かれています。区の事業は、多くの方に影響を及ぼす事業と、個人、各個々に支援をするアプローチに分かれていますので、まずその仕分けをしました。そして、それがその事業が安心につながる事業なのか、または活力を生み出す事業なのかというところを仕分けして、これを4分割にしたものでございます。そして丸の大きさはその事業の予算の大きさを表しています。ですので、どの分野にどれぐらいお金を投じていたのかというところを可視化したものでございます。もちろん区の事業はここに書かれているもので全てではないので、あくまでも重点プロジェクトと位置付けたものだけの整理ではあるのですがご覧いただきたいと思います。この1枚目はその見方を説明したものです。

資料9-3、これはそれがひと分野に位置付けられる事業です。コロナ禍ということもございまして、ポピュレーションアプローチ、例えば予防接種事業の拡大ですとか、どちらかというとポピュレーションアプローチで安心といったところに丸が偏っているという状況でございます。

今度はくらし分野です。くらし分野ですと、ビューティフル・ウィンドウズ運動ですとか、あとは防犯カメラの設置。あとは生活困窮者の自立支援事業といったところで、どちらかというと安心を高めていくというような施策に大きく予算を使ってきたということでございます。

9-5がまち分野です。まち分野はまちづく

りのことになりますので、足立区に活力を満たしていくという分野が多くなってきますので、ポピュレーションアプローチの活力分野へより大きい丸がついています。

最後は行財政です。行財政は区の中のことが中心になりますので、ちょっと丸を付けるのは難しいものがあるのですが、このように整理をさせていただきました。こちらはあくまでも我々事務局の中で、この事業は活力の分野だとか、安心の分野だとか、私どもの独断で位置付けたものですので、委員の皆様にとってはこの分野は違うのかなとか、あとこれは安心分野であって活力ではないとか、いろいろなご意見がもちろんあるかと思いますが、あくまでも参考として、区が今どのあたりに注力をしてきたのかということをご覧いただきたくてお示ししました。あくまで参考資料としてご覧いただければと思います。大変長くなりましたが、資料の説明は以上です。

8 意見交換（区の現状・課題等）

（宮本会長）

ありがとうございました。事務局から時間を掛けて非常にしっかりとたたき台の資料を出していただいておりますので、これからの意見交換がしやすくなったと思います。それではこれから意見交換の時間に入ってよろしいでしょうか。

まず、事前に各委員から関心がある取り組みについて書類を書いていただいて、事前に提出していただいた方もいらっしゃいます。これも事務局で整理をしていただきました。これを活用しながら、これからの時間を使っていければと思います。まずどのような意見をいただけたか、事務局からご紹介をいただければと思います。

（伊東基本計画担当課長）

それでは本日席上に配付しています事前ワークシート意見一覧、区の課題と感じていることと、同じくワークシートの区の関心のある取り組み。こちらをご覧ください。なお、本日ワークシートをお寄せいただいた委員がいらっしゃいますが、それは記載が間に合っていないので、後ほどこちらは追加させていただければと

思います。

ではこの記載内容をご説明します。まず区の課題と感じていることとして、委員の皆様からお寄せいただいたご意見です。見出しを付けさせていただきました。ひと分野においては、少子化対策について挙げていただいた委員が何名いらっしゃいます。その中でも今の少子化対策の課題として、若者の自立支援や子どもの貧困対策にやや重さがあり、生活困窮世帯の施策というのがやや目立つということで、これから子どもを持ちたいと思える人を増やす施策が不十分だというご意見や、中間所得層の方々が今後子育てしやすいと感じる施策については不十分という意見をいただいた方もいらっしゃいます。また生活困窮世帯に、性教育を少子化対策に取り入れるべきではないかという意見や、子育て世帯をいかにサポートしていくか。足立区から活躍の担い手を輩出していくべきではないか。そこにはまだ課題があるという意見をお寄せいただいた方もいらっしゃいます。

続いて暮らし分野につきましては、主に3点ございました。環境の分野になりますが、SDGsが叫ばれている時代ですので、物品の再活用。特に粗大ごみの再活用等を進めて、若い世代が転入することを考えれば、若い世代の暮らしに掛かる初期投資を抑えられるような後押しをすべきではないかというご意見。あとは町会・自治会については、高齢化が進んでいて、町会・自治会というシステムそのものが機能不全を起こしているのではないかと。加入率そのものを上げることも大事かもしれないけれども、それ以外の改善策をいろいろ考えていくべきではないかというご意見をいただきました。

また、まちの分野につきましては、エリアデザインを足立区は進めているところですが、千住地区のエリアデザインとしては、更に必要性が出てくるのではないかと。单身向けのアパートや大規模マンションが乱立している現状であり、エリアデザインがされている気配がないというご意見をいただきました。また、公園以外に気軽に過ごせる場所をもっと設置すべきとか、不燃化特区を整備していくべきではないかというご意見もいただいています。

また、行財政分野については、主に区政運営のところですね。区としていろいろイメージアップを図っていることは承知しているけれども、一般の納税者の方々に対するサービスというところが更になれば、イメージアップは難しいのではないかと意見をいただいています。

もう1枚、関心がある取り組みとして挙げていただいたものをご紹介します。ジャンルの数としては、ひと分野で多くいただいたところです。養育困難改善事業ですとか、宿泊型産後ケアですとか、このあたり主に子どもにかかわる分野に関心があるというご意見をお寄せいただいているところです。また、暮らしについては、孤立ですとか、まちについては空き家、お部屋さがしサポートや、地震への備えということで住宅や災害対策といったところに関心があるというご意見がございました。また行財政については、シティプロモーションは区としても力を入れていますが、協創推進体制の構築ですとか、組織の能力や組織風土の向上。また公有財産の活用。区役所内の管理職の女性の割合。こちらを更に高めていくべきというところにご関心があるという意見をいただいています。そしてもう1枚。基本計画審議会の全体会の事前質問の回答についてということで、事前にお寄せいただいているところで整理しています。回答を差し上げる時間がございませんので、書面をもって代えさせていただきたいと思えます。

(宮本会長)

ありがとうございました。それでは、これから自由に意見交換をする時間が45分ぐらいということなので、委員の数も多いので、あまり一人で長時間発言していただきますと、足りなくなりますので、極力今日は全ての方が発言できるようにということでご配慮をいただきながらご発言をお願いしたいと思います。

(渡部委員)

渡部です。質問があります。事前に質問を受け付けていたにもかかわらず、今日資料を詳しく説明していただいて、とてもよく分かりました。ありがとうございます。この先も人口は増

えていくことをよしとするという方向性でよろしいのではないかと想像しておりますが区の人口ピラミッドを拝見したところ、超過が20から24歳が一つの山を作っているということで、そこは何が理由なのかが気になりました。例えば、大学がたくさんあるので、もう少し前、16から18歳の世代がドーンと増えているという結果なのであれば、大学が増えたからそうだねという理由は分かるのですが、20から24歳が一つの大きな山になっていて、これが近年ずっと傾向として変わっていない。ここに何の理由があるのかが分かれば、今そこでどういう理由で人が入ってきているのかが分かるのかなと思いました。

(宮本会長)

では事務局からお願いします。

(伊東基本計画担当課長)

ここは分析の途中なので、確かかと言われるとまだあれなのですが、どういう自治体から足立区に来ているのかということも併せて今見っていますが都外から来ています。例えば札幌とか北海道から来ているという状況も見えてきているので、おそらく就職がきっかけなのだと思います。転入アンケートというのを私ども数年前にやったのですが、20から24歳の方々の転入のきっかけは就職が半数以上だったので、おそらく地方から都心に出てくる時に、地価の安さもあると思うのですが、そのあたりで足立区を選ばれている方が多いのかなと思います。

(宮本会長)

人口の移動について関連してご質問なりご発言はありますでしょうか。

(市村委員)

昨日、東京都の民生・児童委員の会長会で江東区の豊洲地区、豊洲のタワーマンション地区を見学に行ったんですね。あの地区は江東区でも現在もともと人口が20年ぐらい前までは工場ばかりで全然いなかったのですが、現在あそこだけで13万人の人がタワーマンションに住んでいるということです。それでやはりまだまだあの豊洲地区は、有明地区も開発していますので、人口はこれからどんどん増えるであろうということを昨日説明を聞きました。そのよう

な中でバスで回っていて感じたのが、高齢者が道路をあまり歩いていないということです。それというのは、多分タワーマンション自体の価格が高いので、働き盛りの人でないとなかなかあそこのマンションは買えないのかなと思っています。もともと住んでいる方がいないわけですから、そこに高齢者もなかなか住みづらい、買いづらい、だからいないといったことなのかなと思いました。

足立区は既に高齢化率が25%近いということですので、我々今民生委員の活動をしている中で、高齢者対策をどうするかということを区の方にご指導をいただきながらやっているわけですが。我々は、足立区は優しい区にしてもらいたいです。高齢者に優しい区にもらいたいなということで、やはり高齢者を、特に独居の高齢者が増えてきている状況の中で、その人たちをいかに守っていったらいいかという施策をどんどんこれから入れていってもらいたいなと思います。もっと地域で高齢者を見守る雰囲気。区民がみんな日常、自然に高齢者を見守る雰囲気づくりというのを区の方で、どんなやり方があるかは別ですが、もっともっとそれやっていたきたいと思った次第です。

(宮本会長)

関連していかがでしょうか。

(笠井委員)

先ほど自己紹介でも言ったように自治会も僕はやっていまして、先ほどの話のつながりで、やはり高齢者もそうなのですが、高齢者と新しく生まれる子。そして今育っている子どもたちをいかにつなげて、地域の中で活性化するかと言うか、みんなで見守るかというのが、今意外と薄れているような肌感が僕にはあります。そこら辺をもっともっと力強く、先ほど区長が言ったように、足立区らしさという部分を前向きに出すいい政策が考えられるのではないかと思います。

(秋山委員)

先ほど市村さんからお話があった豊洲エリアの話ですが、実際に千住では千住大橋地区に既にマンションが林立していて、更に建つような土地がまだ5ブロックぐらい残っています。ま

た新しいマンションが更に建つ予定になっています。あそこは小学校が1校しかないので、既に1学年で7クラスぐらいの小学校になっていて、かなり破綻していると聞きます。あとは更に昔のアメージングスクエアってご存じだと思いますが、あそこにあった施設が今取り壊されて、あそこも5棟ぐらいマンションが建つ計画になっているそうです。住所で言うと、千住閑屋町になります。私近隣に住んでいるので、あそこにまた建ったら、今度は千住第八小学校が千住小と同じ状況になるのではないかと危惧しています。あとは足立区の千住地区のマンションの価格は、大体平均的なものが7,000万ぐらいになっていて、大体共働き世帯で買っていくという設定になっているので、いろいろな階層の方とか、高齢者が入ることはなく、働き盛りの若い人しか住めなくて、本当に豊洲みたいになりかねないということを最近実感しています。なので、おっしゃる通り、前から住んでいた世代と新しく住む世代。また年齢層の違う方々がうまく混じるという仕組みづくりは急務だと思います。

(野沢委員)

先ほど市村委員がおっしゃったように、やはり高齢者に対する見守りが重要だと思っています。ただ一方でやはり民生委員の方々の仕事ですごく多岐にわたって、多忙で飽和状態になっています。子どものことからお年寄りのことまで本当に多くのことをやらなくてはいけない。ですので、私個人的な意見なのですが、元気な高齢者の方々、やる気のある高齢者の方々に、そうでない高齢者の方々を見守っていくようなそういったシステムを作った方がいいのではないかと考えております。ちなみにですが、私、足立区のビジネスコンテストに今言ったことで応募したのですが、採算性が取れないということで却下されて。採算が取れないなら区でやったらどうかって胸に秘めていまして。今ここで話ができたことをうれしく思っています。

(遠藤委員)

今、高齢者のお話がありましたが、私、千住旭町商店街で10年ほど理事長をやっていました。その時は実は180店舗の会員がいたので

すが、全てほとんど地元で生まれ育った商店でした。今200店舗ありますが、10店舗しか元の商店は残っていません。つまり、商店街というのはもともと商売をするだけではなくて、地域のコミュニティの基本を担っていた部分が随分あったんですね。それはなぜかというと、戦後の地方の要するに就職とかそういうもので、政策的に国が商店街をたくさん作って、それでこれを維持するみたいなのがあったので。それと同時に、社会に対するいろいろな仕事を商店街が担っている部分があったのですが、それが今激しく衰退していて、それを担う部分がなくなってきたんです。そういう問題があって、様々なつながりみたいなものが崩れ去ってきているという現実があります。

(片野委員)

これから10年先、どのような方に足立区に入ってきてほしいのかということを考えて、計画も立てなければいけないと思います。このご意見の中に、中間所得層が足立区で出産・子育てしたくなる、子育てしやすいと感じる施策が不十分と書いてあり、確かにそれは言えていると思います。やはり子どもの貧困対策が表にすぐ出ているので、やはりそういった活動ばかり表に出て見えてしまうと、そうでない方たちは何かないがしろにされているようなことを感じているというご意見を私はいただいています。ですので、この手の出し方はすごく難しいのですが、私としては学校を充実したものにすることによって、やはり教育というのはすごくどこに住むかを選ぶ時に大事になりますので、そういうことに力を入れていくことを前面に出していく。今おいしい給食が出ていますが、それ以外のことで出していく必要があるのかな。特に学童の問題は、待機児童ゼロの時は学童。特に千住地区は学童が足りなくて、学校からかなり遠いところに学童ができるという形になっていて、これだと危なくて歩かせられないというご意見も出ていました。ですので、そういう学童の問題も一緒にまちを考える時に作っていくということが必要なのではないかなと思っています。

(宮本会長)

今のお話で中間層を呼び込む時に、学童充実もそうですが、例えば私立学校を増やすとかですね。そういう意見も出そうな感じがありますよね。そういうことも含めて検討の中にはあるかもしれません。

（山下俊樹委員）

今、お話があったように、それこそ古き良き社会、あるいは町並み、あるいは人のつながり。これはもちろん大切だとは思いますが、社会の変化はいかんともしがたいというところも直視しなければいけないと思います。私の患者様の7割以上が高齢者ですから、高齢者をないがしろにするわけではないのですが、これから足立区が活気あるまちになるためには、やはり若い人。特に若い夫婦がいかに足立区に住みたがるようになるか。これがないと、財政的にも将来厳しくなってくるでしょうし、そのためには若い人たちが子どもを産んで、そして育てるのに育てやすい。簡単に言えば負担が少ないというような施策がどうしても必要になる。当然周りの区も考えているでしょうから、負けてしまうと、足立区から若い人が逃げていくということにもなりかねない。そういう意味では、確かに高層マンションが建っていくというのは、忸怩たる思いで見ている人たちは多いと思いますが、ある程度肯定的に見て、そうした人たちをまちに取り込んでいくにはどうしたらいいのかということを考えるべきではないかと思っています。

（石阪副会長）

私もエビデンスは欲しいと思っています。今若い人が入ってきているということですが、おそらく賃貸物件なんですね、若い人は。いざ自分でそこで結婚して子どもを産んで持ち家となった時には、私今埼玉に勤めていますが、結構土地の安い埼玉県に流出していく。つまり、足立区には少ししかなくて、若い人が係留するような感じでいなくなるのではないかな。このあたりのデータが欲しいですね。きちんと持ち家を足立区で買ってそこで住むという。そこまで若い人が定着するような施策を今後やっていくためには、その辺のデータが必要だと思いますが事務局、いかがでしょうか。

（伊東基本計画担当課長）

人口動態をいろいろ調べているのですが、やはり子育て世代、20代とか30代前半ぐらいの人と一緒に9歳とか1桁台の子どもが流出しています、流山の方に。なので、会長がおっしゃったように、賃貸からライフステージが変わった時に、より広い自宅を購入するようないきかけで、鉄道沿線だとか、TXの沿線のところに流出していく人口が多い傾向があります。

（石阪副会長）

これは区にとって大きな損失だと思います。そのあたりも施策の中に盛り込めれば、若い人が安心して住めるような、そういうまちになるといいなと思いました。

（野沢委員）

先ほど山下委員がおっしゃったことは腑に落ちると言うか、私も同じように考えています。事前ワークシート意見一覧の中で、行財政のところに区政運営について書かせていただいたのは私です。足立区は23区で最も都営住宅が多いので、かつ低所得の方が多いので、区の政策は福祉政策に偏りがちで、これ自体悪いことではないし、本当に必要なことだとは思いますが。ただ、一方で納税者の方々、区の財政を支えている納税者の方々が住んで良かったと思えるような施策が必要だと思います。例えば子育て施策に関しては、所得制限をなくして、幅広い方が受けられるようなそういった施策が必要だと考えます。

（ぬかが委員）

実は私もいただいた資料の中でも、特に子育て分野については、そうではないところもそうかもしれませんが、やはりポピュレーションアプローチの側面が重要だと思っています。この間提案してきているのが、例えば乳幼児で言うと、乳幼児って施策としては保育料や何かはただになりますよとか、待機児をどうしようというのが今までの施策だったのですが、例えばもっと小さな赤ちゃんたちを育てているお母さんへの支援策って、何か困難があったらお世話になるという側面が大きい。そうではなくて、例えば他の自治体で始まった紙おむつを宅配で生協の人とか委託をしたNPOが届けて、

それは希望者全員に。誰でも紙おむつを届けて、そして日常会話をする中で、困難があった時に相談できるような関係とか、そういった気軽な支援策と言うか、そういうのが非常に重要だと思っています。やはりそういう点を重視しながら議論できたらいいなと思っています。

私自身は分科会がそういう、ひととかの方なので、逆にまちづくりの方で発言できる機会があまりないと思うので、一つだけ。先ほど千住でマンションが増えているという話があったのですが、私もそういう問題意識があり、まちづくりだし、事業者が出てきていいまちと一緒に作ろうというのは大いにいいことだと思っているのですが、何が違うんだろうと思った時に、行政も含めて地域の方々のコミュニケーションとか、地域が何を望んでいるのかという徹底したディスカッションをした上で、このまちをこう作っていくのだと。そういう地域の自治のようなあり方が必要なのではないかと思います。

例えば、足立区でよくあるのは、大体道路なんていうと、50年前、60年前に都市計画決定したからこれは進めるのだと、多大な税を投入するわけです。それから再開発なども同様の側面はあるわけです。そうすると、50年前に決めたから進めるという発想ではなくて、地域が何を望むか。地域でディスカッションした上で計画を進めるということが、そういう角度でまちづくりを今後考えていく必要があるのではないかと思います。そういう事例はないかというろい勉強していく中で、例えば岩手の盛岡と花巻の間にある紫波という町があるのですが、その紫波町はほとんど廃れた駅が、そういうまちづくりをやって、駅前に再開発なのだけでも、徹底した住民の声を生かした再開発をやったんです。3階建てぐらいの住宅もあり、公共施設もありの再開発をやって、100万人が訪れるまちになったというのが、このオガール紫波という紫波町の駅前再開発だったのです。そこを見学に行った時に、住宅は新しいから、新しい子育て世代がどんどん入ってきて、ワサワサしているわけです。一方で公共施設スペースと言いながら、商業スペースも当然あってまちを大事にしている、まちのおじいちゃん・おば

あちゃんと若い人が交流しているという、そういうまちづくりも、小さなまちでもできていました。逆に大きなまちだから、やりづらい側面もあるのかなと足立区には思っているのですが、やはりそういう手法をまちづくりの中で研究しながらやっていくと、本当に対決構図ではなく、子育て世代も高齢者の世代も生き生きとやっていけるような、若い人が流入してくるようなまちが作れるのではないかと考えています。まちづくりの意見を言う機会がないので発言させていただきました。

(宮本会長)

一つだけ。今子育て世帯、つまりカップルと子どもの問題と高齢者・単身という話で出ているのですが、実は東京23区の人口動態を見ると、もっと重要なのは中年のシングル層がどんどん増えています。これは5年前から私、グループで東京23区の調査をやって、23区についてのこれからの問題は、若い人たちが入ってくるが、昔は入ってきてある年齢になって家庭を持つと住宅が狭くなるので、郊外に移動して自分の家を持つ。その結果、区部の人口は減少傾向にあったのです。ところが今、東京23区はそういう循環がなくなってしまった。なぜなくなったかということ、若い人たちが結婚しないからです。結婚しないとなにも郊外の広い家に移る必要はないので、東京23区に家賃は高くても狭いけれども、1人なら便利だということですから、20年以上住んでいる中年シングルが非常に多くなっています。

区によって若干違うけれど、どうも調査研究によると、全体の傾向はどこの区も同じ。ですから、足立区の問題は、子どもを産む世代をどう呼び込むかもあるけれども、呼び込んでも、子どもを産まないで足立区に定住する人が増える可能性がある。このあたりのところをどうするのかということと、シングルの特に中年の方は、ご本人たちの意識を聞くと、親しい人を持ちたいとか、いざという時に不安だから、隣近所との関係を作らなければいけないなと思いつつ、ほとんど関係を持っていないわけですね。これはもう災害の時なんかは大きな問題になると思います。高齢者も含めて単身世帯が6割。

人口で言うと3割ぐらいという数字になっています。足立区についてまた資料を作っていただくと、より具体的になると思います。

だから、中年のシングルの人たちを、区の中でどう位置付けるかということも、同時に重要だと思います。

（野沢委員）

今のお話納得感がありまして。私も高等裁判所に勤めていたので、裁判官とお話をするのですが、裁判官には年収1,000万とか2,000万を超える方がざらにいらっしゃるのですが、やたら独身が多い。裁判所の職員もそうなのです。私は選挙の時にマッチングアプリを訴えようかなと思ったのですが、こういったものに対する抵抗感がある。もしかしたらですが、なかなか行政とか執行機関も、高齢者とか若者のマッチングに対して正直抵抗感があると思います。ここはもしかしたら舵を切って、そういったものへのアプローチも必要かなと思うのですがいかがでしょうか。

（岡安委員）

宮本会長がおっしゃった、中年の独居が増えているというのは、そういう切り口で施策を考えるというのは、政策経営部長もいますが、なかなかそういう切り口で足立区も考えたことはないでしょうし、他区でも中年の独居が増えることに対しての、こういう方針を示しましたなんていうのは聞いたことがないので、今後の新しい福祉と言うか、そういう課題なのかなと思っています。今いみじくも言った新しい福祉という点では、20年前、30年前になかった例えば虐待問題ですとか、いろいろなものが出てきて、様々な課題になっています。人口がいつまでも増えていくというのは、コロナ前は東京23区ではほとんどの区が増えていましたが、コロナでだいぶその辺の風向きも変わり、これから足立区も基本構想を作った時には、かなり右肩上がりだったのですが、だいぶ変わっていくのではないかと思います。ピークが数年後、少しずつ減っていくという感じだったと思うのですが、また改めて推定すると変わるのかなとも思っています。日本全体が減るのですから、足立区も減って当たり前だと思います。そ

の中でどれだけ活力を保っていけるかというのは、いろいろな切り口があって難しいのだろうなと思います。

高齢者の課題というのは、独居高齢者も増えていますし、様々考えなければいけないのですが、高齢者施策を充実するだけですと、やはり活力というのはなかなか生まれない。昨今テレビなんかで取り上げられるのは、やはり若い世代がたくさん入ってきて、子育てしやすいまちというので、転入してくれば100万円をあげると言うから私来ましたなんて取り上げられている田舎のまちがあり、すごく活力があつていいです、なんてお母さんのコメントが出ると、ああいうまちがいいみたいになりますが、これはいずれ限界があるのだろうなと思います。

私は建設関係に勤めていたのですが、昔よくニュータウンを作っていたんです。ニュータウンを作る時に皆さん何を望むか、それは交通の利便性もありますが、まずは買い物。学校・お医者さん。学校は子育ての施設も含まれますが。それと役所や交番もあるのですが、それぞれに足立区は全体的に不足しているものはないのですが、一つひとつ課題もあるという中で、全般的に充実させながら、特に何かをパシッと全国にPRできるものを作っていって、何かを呼び込むことが大事だと思います。最近よくテレビで足立区が、穴場のまちなんて言われて、意外と交通が便利なのに安いと、子育て支援も思ったよりも充実している。昔は埼玉県足立区なんて馬鹿にされていましたが、今はやはり東京なので、高校3年生まで医療費も無料ですし、東京がいいと言って、埼玉に行った人が戻ってきたりということがあります。それが先ほどの若い世代が、20代が増えている理由の一つでもあるのかなと思っています。いずれにしても難しいなと。いろいろな切り口で足立区をどう活性化し、魅力あるまちにしていくのかというのは、本当にこれが正解だというのはないのかなと思っています。いろいろな議論の中で、ここを今後の足立区では伸ばしていければなというのを皆さんの議論の中で合意できればいいなと思っています。

(加藤委員)

よく話していることなのですが、私が学生時代、足立区には友達から大学がないじゃないかと。デパートもないと。あまり行くこともないし、交通も不便だし、治安が悪い。だから行かないとよく言われたものです。ところが、2013年に文教大学ができました。六つの大学ができました。千住にはデパートもできました。一万人規模の大学生が通学しています。鉄道はどうかというと、つくばエクスプレスと舎人ライナー。二つの新線が加わりました。まちにはコミュニティバスが通っています。交通の利便性が向上しました。そんなことで、今足立のレベルアップはかなりあり、足立区は住みやすいのではないかというアンケート・世論調査が増えてきています。ただ、どうでしょうか。これから人口問題。2008年に1億2,800万人がピークとなって、だんだん減少してきていますね。23区も既に減少している区が出てきていますが、足立区は、今は69万人でしたか。この2～3年がピークじゃないかと言われています。その後減少してくるという予想がされていますね。ですから、これからは23区が競って、いかにして定住してもらうか。いかにして県外・他区から移住していただくかと競い合っていますね。ですから、その競い合っている魅力と言うか、足立区は更に魅力を出さなければいけないと思います。特に今の基本計画で評価が低いところがありますが、評価が低いところの施策を再検討していただいてレベルアップすることが必要だと思います。

それから、やはり今まちの活性化には若い方、あるいは子どもの人口を増やすことが必要だと思いますが、今まちのいろいろな青少年の事業をやってしましても、子どもが非常に少なく、いろいろな事業が継続していくことが難しい状態になってきています。というのは、子どもの人口はかつては10万人。小中学校の児童・生徒だけで10万人を超えていましたが、今は4万3,500人と半数以下になっています。ですから、そういった面からの若い世代。そして、子どもの方々を増やしていただく政策が必要だと思います。ぜひそういったことを取

り入れた基本計画を策定できればと思います。

(渡部委員)

いろいろな話を聞かせていただいて、どういう方法かに絞るのは難しいことは重々承知の上で、ただ方向性としてどこを目指すのかというのは、ある程度決めていく必要があるのではないかと感じました。例えば、人口は今この先増えた後に減っていくのではないかという予想も先ほど出ました。子育て世帯を増やすためには若者の流入を増やすみたいなこともありつつ、やはりシングルの形も増えているという会長のお話もありましたので、今までは人口を増やすということも目標値としてあったと思います。であれば、若者の流入をもっと増やすとか、子育て世帯の流入を増やすとか、それこそ出生率を上げるみたいな、子育て世帯の施策の充実を目指す方向に行くと思います。この先それが見込めないと、これもエビデンスが必要だと思いますし、そこは確認が必要です。足立区がこの先労働者層、高い税金を見込める労働者層を増やすみたいな方向にシフトしていく可能性もあるのかなと感じました。人数が増えなくても、税金が増える形を取っていくのであれば、子育て世帯に限らず50代のシングルは多分一番お金を持っている層だと思いますので、その意味ではそういう方々が増えることで、まちはより豊かになるのではないかと思います。これも含めて、目線としてはいろいろな形がありますが、税金を増やすという方向にシフトするのであれば、いろいろな方に対してウェルカムで取り扱いができるのではないかなと感じました。

(宮本会長)

今の渡部委員のご発言の税金を増やすという意味では、なにも子育て世帯に限らなくてもいいというご発言ですが、そのあたりについていかがですか。

(笠井委員)

まさに経済というものがいろいろなものを牽引するのではないかという話の感じでした。税金だけだとその年とか、本当に短期という部分になってくるかと思います。僕は日頃美容師

なのですが、当然収入の高い方も低い方もお客さんで見えていて、収入の高い方は比較的自己的、自分のことしか考えていない方が多い。そして、意外と低所得者の方ほど多産であって、苦勞をしているような雰囲気があります。それはみんなのつながりが大事で、助け合いがすごく大事だと、結構意見が二分化します。そうなってくると、税収が高い方を呼び込むとすると、やはりその個人的な目的を達成するための魅力ということになりますし。それがこれからだと足かせになるのではないかと思います。税収だけで考えていると。やはり一番は自治体がそういう全体的に何ができるかで、それを満足させる。要は経済的な部分でどう支えられるのか。要は全部ではなくて、例えば集中して子育て世代だけにそれができたら、意外と集約して可能ではないかと思っているのですが。そこら辺いかがでしょうか。

（岡安委員）

非常に大事な視点だと思います。担税力のある人を増やすというのは。ご案内の通り、足立区は非課税の方が23区で一番多い区です。これは人口から行くと、江戸川・練馬・世田ヶ谷・大田ぐらいと比べるしかないのです。その4区の中で比べれば、やはり足立区はそうなるのだろうなど。率で言えばまた違うかもしれませんが。ただ、足立区も10年以上前でしたか、担税力のある区民を増やすということで、いろいろな施策を打っているのですが、なかなか決定打がなく、自主財源を作ろうと言って、様々な取り組みをしていますが、これも限界があるということです。地方に行けばいわゆる企業の法人税などが入るわけですが、東京都の場合はそれぞれの自治体には入りません。やはり区民、端的に言えばお金持ちの区民が来てくれれば、一気に税収は増えるのですが、なかなかそれも難しいということで、どういう政策を打ってやればいいのかというのはなかなか難しいです。やはり担税力がない人も含めて、魅力あるまちにするしかないのだろうなど。足立区に引っ越してくれれば、一定の割合で担税力のある人も含まれるわけですから。それでやるしかない。

ただ、先ほど加藤委員がおっしゃった通り、難しいですね。競争になってみんなで取り合ってもいいのかという。うちだけが勝って、ではあちらの区市はどんどん減ってもいいのかという難しい問題もあるので。広域でやはりある程度東京都、あるいは全国で考えてもらう必要もあるのではないかと思います。今のところ足立区としてまずはそうは言っても、他のことを考えていられないので、足立区としてしっかりと担税力のある区民を区も考えていますが、この分科会をこれからやりますが、そういう中でもこういうことをやったらどうかといういい案が出ればいいなと思っています。

（石阪副会長）

足立区の魅力というのは、いろいろな多様な人がいて、そこからいろいろな新しい活力や魅力が生まれてくるというイメージをずっと持っていましたので、何となく郊外のリッチなまちに足立区になるというのは、何か僕としては残念な気がします。足立区ってそうだったかな、みたいな。それはそれで区民にとっては、結果的に税収という形で還元されるのですが。そういった意味で本当にいろいろな人がいる。これはお金を持っている・持っていない、あるいは国籍なんてどこでもいいし、いろいろな人がいて、いろいろなことをして、足立区で新しい変化が起きてくるというような、こういう魅力のあるまちになった方が私はいいのかなと個人的には思いました。ただ、区民としては切実なんですね、人口減少・税収減少というのは。これとどう向き合うのかというのは、それとは違った形で考えていく必要がある気がします。人口というもので選別すると、変な意味での選民思想みたいなことで、人を選ぶことにもなるかと。なので、そういった意味でいろいろな人が入ってきてもらってウェルカムだという足立区であってほしいという思いがあります。

（野沢委員）

いろいろな議論があるのですが、結論からすると区が大きなまちを目指すか、小さなまちを目指すか、そういったことになるのだと思います。担税力のある方を呼び込むという考え方になると、小さな区を目指す。日本維新の会と

いうのは小さな政府とか言っていますが、そちらに重点的にシフトをするという考え方になると思います。ただ、一方で足立区に関しては、高齢者の方が多い。低所得者が多いということを考えると、やはり小さなまちを目指すのは適切ではない。いろいろな方がいて、いろいろな方のために施策が打てる、そういった区を目指すべきかと思います。ですので、大きな区を目指すべきだと思います。ただ、一方で足立区が魅力あるまちとしてアピールしていくためにはどうしたらいいのかなのですが、先ほどぬかが委員がおっしゃったように、ポピュレーションアプローチということで、兵庫県明石市とか実際におむつとかミルクのお届け事業をやっています。1か月あたり3,000円分のおむつとかミルク、ベビー用品を配付するのですが、そういったことをやられている事業に対して、足立区は上乘せをして、ナンバーワンを目指す。予算の許す範囲で他市町村よりも上乘せして施策を打っていく。そういったことでいろいろなマスコミとか、そういったものにアピールしていくという考え方もあると思います。

例えば、今回の現行計画の総括評価でABCDEとあるのですが、目標を大幅に上回るSランクをどんどん増やすことによって、足立区をもっと良くするという考え方もあると思います。

(小柳委員)

今までは皆さん人口を増やすとか、若者の比率を増やすとか、あとは税収を増やすというので、どうやって今後尻すぼみにならないように回していくかという話であったと思います。少し話は変わりますが、もちろん生きていくことそのものが大事だと思うのですが、単に生まれて生きていって死んでいくというライフサイクルの中で、単に生きていけばいいわけではなくて、楽しんで生きていけるというウェルネスの部分というのがかなり大事だと思っています。単に生きてさえいればいいというものではないと、皆さんがいかに楽しく生涯を全うできるかという部分で、足立区はそういうウェルネスのプラットフォームとして、どのように豊かになっていくかという部分を皆さんで議論していた

だけるともう少し楽しい議論になる気がします。

(加藤委員)

足立区の場合、世帯数が23区で1番ですね。率にすると台東区が1番で足立区は2番です。そんなことで、だから犯罪が多くなるのだという問題をやったことがあります。確かにワーストワンだったんですね、23区中で。しかし、ビューティフル・ウィンドウズ運動をやった効果で、上位から19位になったんです。去年は少し下がったのですか。でも犯罪の件数も努力次第で下げられるわけですね。ですから、そういった政策によっていろいろ変わってくると思います。世田谷区並にする話がありましたね。所得の多い方を増やすのだと。足立区もやったことがあるのですが、やはりそれは、魅力あるまちづくりをすればそういった方も増えてくるのではないかと思います。いかにして魅力ある、またレベルアップのまちを作っていくことが大切じゃないかと思います。

(ぬかが委員)

やはり多様性を大事にできる足立区というのをどう突き出せるかが大事だなと思います。みんなが生きやすい。みんなが気持ち良く過ごせる。そういう足立区、だからおいでよと言えるような足立区にしたいです。先日花火大会が東京近辺で最初にやったので、テレビで大きく報道されましたよね。マスコミは粗を見つけてごみがこうだとかやりたいのだけど、それに対して区の担当者が、皆さんは本当にマナー良くやっていただきましてって繰り返しテレビで言ったんです。それ私、すごく印象的で、つまり、ビューティフル・ウィンドウズと同じで、マイナスイメージはあるけど、プラス面を突き出して、それでマナーを守っていい花火大会になりましたって担当者が言うわけです。そうすると、小さなごみの部分ではなくて、全体でみんなが楽しめたよというのが印象として、全国にもPRできた。同じようにマイナスイメージはあるし、それを補う要素はあるけれども、プラス面をどうPRするか、アピールするかということも大事なかなと。そういう中で切り口として、多様性や、花火なんかでも他では有料じゃないと見れない花

火とか話題になりましたよね。でも足立は無料で誰もが、もちろん有料席はあるけれど、無料でも誰でも楽しめる。そこに足立の良さがあるというのを思いました。

(宮本会長)

ありがとうございます。第1回目にもかかわらず、様々な意見が出て大変楽しい議論になった感じがします。来週から分科会で人数が限定されますので、より遠慮のない意見交換ができるし、分科会の回数の方が多いので、そこでしっかりいろいろな意見を出し合うことで、何か出てくるのではないかというふうに期待するところです。では本日はここまでということで、あとは事務局にお返しします。

9 事務連絡

(伊東基本計画担当課長)

本日はありがとうございました。1回目から多くのご意見をいただきありがとうございました。これからどのように整理をしていくかというのは悩ましい部分もありますが、引き続き分科会でも議論を重ねて、より良い計画を作って区政に生かしていきたいと思います。

今、会長からもお話がありました通り、くらし・まち分科会については9月7日、午前10時から。ひと・行財政分科会については、9月8日、午前10時からの開催を予定しております。詳しい開催場所については、本日お配りした資料1に記載がございますのでご確認ください。本日いただいた意見をまとめた上で、各分野においてより深い議論を、どうあるべきかいうところもご議論をいただければと考えていますので、当日整理されたものを配付させていただきます。

また、全員が揃う次回全体会は、こちら令和6年の1月の16日、午後1時からの開催を予定しております。場所は本日と同じ特別会議室ですので、よろしくお願いいたします。それではお忘れ物のないよう、またお車でお越しの方は職員が駐車券をお渡ししますので、お声掛けいただければと思います。本日はありがとうございました。